



Short ショートコメント

★★★

イコライザー THE FINAL

2023年／アメリカ映画

配給：ソニー・ピクチャーズエンタテインメント／109分

2023（令和5）年10月9日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

Data 2023-11-18

監督：アントワーン・フーク

ア

脚本：リチャード・ウェンク

出演：デンゼル・ワシントン

／ダコタ・ファニング

／デヴィッド・デンマ

ン

みどころ

「スパイもの」の「シリーズもの」は多い。シドニー・ポワチエの後を継いだ黒人の名俳優、デンゼル・ワシントンも、本シリーズでその路線に乗ったが、その成否は？『ジョン・ウィック』シリーズは大成功だが、米国版の“必殺仕掛け人”たる彼の必殺技は？そして、19秒で世の悪を完全抹消する「仕事」請負人、通称イコライザーたる彼は、いつ、どんな場面でどんな役割を？

『THE FINAL』とサブタイトルがついた本作の舞台は、『ゴッドファーザー』3部作（72年、74年、90年）を彷彿させる南イタリアの田舎町。そこで引退の決意を撤回してまで彼がやらなければならなかつたこととは？「スパイもの」として悪くはないが、特に秀作とも思えない私の本作の評価は、星3つ！

—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*—————*

◆「スパイもの」の代表は、今まで計25作も続いてきた『007』シリーズだが、アメリカはCIAを中心に、イギリスはMI6を中心に「スパイもの」の名作が次々と作られてきた。ちなみに、近々公開される、ジェイソン・ステイサム主演の「スパイもの」『オペレーション・フォーチューン』の“売り”は、「ジェームズ・ボンドよりもオラオラで俺流！イーサン・ハントを凌ぐ強引きで寄せ集めのチームを率い、キングスマン以上にぶつ飛んだオペレーションを実行！！」だ。

◆黒人俳優のトップをシドニー・ポワチエから引き継いだ感が強いデンゼル・ワシントンは、シドニー・ポワチエと同じような「何でもござれ」の名優。『マルコムX』（92年）や『トレーニング・デイ』（01年）（『シネマ1』14頁）での熱演は、今なお強く印象に残っている。そんな名優が、19秒で世の悪を完全抹消する「仕事」請負人、通称“イコライザー”役を演じたのは珍しいが、それがシリーズ化されたのはもっと珍しい。

本作の原題は『The Equalizer 3』だが、邦題には『THE FINAL』という副題がついているから、間違いなく本作はシリーズ最終章らしい。すると、デンゼル・ワシントン演じ

る元 CIA のトップエージェントだったマッコールは、今や引退間近・・・？

◆本作冒頭、“ある任務”を果たし終えたマッコールが、ちょっとした油断（？）で撃たれてしまうことに。アレレと思っていると、“ある場所”で“ある男”から「君は良い男か？それとも悪い男か？」と質問され、「わからない」と答えると、相手は「良い男」と解釈してくれたらしく、傷の治療をしてくれたから超ラッキー！

さらに、少しずつ傷が回復するにつれて、彼は治療してくれた医師はもとより、南イタリアの田舎町の村人たちと仲良しに。すると、彼は CIA の仕事を引退し、この田舎町で余生を静かに送ることを密かに決意！？これは『ランボー』シリーズで見た、ランボーと同じ心境だが、ホントにそんなことができるの？

◆中国マフィアも恐いが、イタリアマフィアも恐い！それは『ゴッドファーザー』3部作（72年、74年、90年）を観ればよくわかる。同作の主要な舞台はアメリカだが、彼らの故郷はイタリアだから、スクリーン上には再三その風景が映っていた。とりわけ第2部では、回想シーンや結婚式のシーンで印象的なシチリアのコルレオーネ村の風景があれこれと・・・。本作前半はマッコールが村民と溶け込みながら静かに過ごす、そんな南イタリアの田舎町の素朴な風景と素朴な人情がたっぷりと描かれるので、それに注目！

◆そんな良き風景を台無しにするのは、地元のマフィアたちだ。彼らは法を無視し、暴力で町を牛耳り、この海辺の町全体を一大リゾート地にしてボロ儲けすることを狙っていたが、その他にもコカイン関係の悪しき副業が！そんなマフィアの暴力によってマッコールの身近な友人たちがいわれなき被害を受け続けているのを見ると、アメリカ版“必殺仕掛け人”とも言うべきマッコールの行動は・・・？

◆当初の彼の行動は古巣である CIA の担当部局への“たれ込み”。それを聞いた CIA の若き女性エージェント、エマ・コリンズ（ダコタ・ファニング）はすぐにコトの重大さを認識し、CIA の総力を挙げて南イタリアに乗り込み、マッコールの協力を得ながら地元マフィアだけでなく、その上層部で君臨する巨大悪と対峙したが、さて、その展開は？

日本では 1960～70 年代に、全共闘運動の高まりと共に大流行したのが、高倉健主演の『昭和残侠伝 唐獅子牡丹』（66年）をはじめとした『昭和残侠伝』シリーズ。そこでは、悪人たちの悪行にじっと耐えながら、最後に大爆発し、単身、巨悪の根源に向かってドスを突きつけていく高倉健の姿に拍手喝采していた。本作は、そんな昔懐かしい匂いがブンブンする作りになっているので、それに注目！まあ、そんな点をタップリ楽しめるので、『ジョン・ウィック』シリーズほどの面白さと迫力はないが、作品の出来としてはまずまずなので、私の採点は星3つ。

2023（令和5）年10月11日記